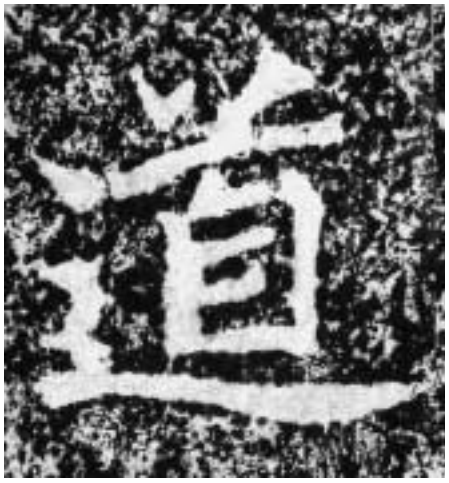
元謐墓誌銘

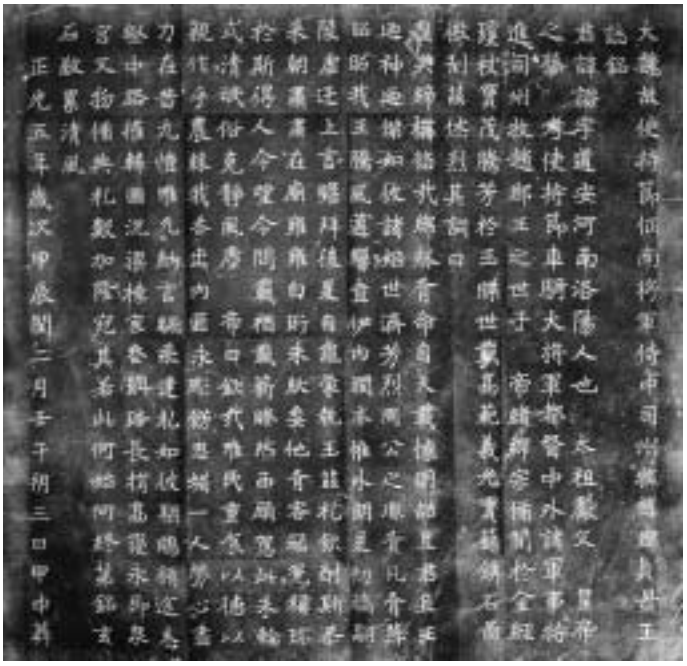
524年
（北魏時代・正光五年）

古典碑帖の窓④

木雞室
伊藤　滋



鄭羲下碑・選字



元謐墓誌銘・整拓本

漢碑や唐碑などは長い年月の間、風雨に曝されたりして碑石が損傷し、碑面の文字が刻された当時の状態を完全に伝えているものはそれほど多くない。ところが墓誌銘は本来地下に埋葬されたものである。近代になり多くの墓誌銘が出土した。これらは埋葬された当時の状態を残している。ここに示した『元謐墓誌銘』は、文字も大きく、刻りも丁寧で、毛筆で書かれた趣が見事に再現されている。六朝楷書の佳作の一であろう。鄭道昭の『鄭羲下碑』とほぼ同時代であり、比較してみると文字の結構、用筆に類似した点が多い。（右頁に示した碑額の「陽」、碑文の「道」の字は、『鄭羲下碑』のなかの字画が鮮明に窺われる部分である。左頁の『元謐墓誌銘』の同じ文字と比べてみてください。）『鄭羲下碑』は摩崖碑であるために石面が粗い。『元謐墓誌銘』は墓誌銘のために石面が平滑に整えられている。刻された石面の違いが書の趣を大きく変えていると考えられる。

書道芸術院
平成の書（2009）

西林乗宣
財団法人書道芸術院
理事

心如鐵石

鴻思に応える

今から46年ほど前の昭和37年、今は故人となられた山本聿水先生の手引きで、当時、全国をご自分の車で行脚し、漢字やかな部をはじめ書道芸術院の組織の拡充につとめておられた香川峰雲先生にお会いさせていただく席が、前橋市内のさる老舗の料亭に設けられた。緊張した面持で下谷東雲、田村翠淵、田村華堂、西林乗宣の面々が参上した。その席で書道芸術院への入会勧誘が話し合われ、大方が承諾された。しかし私の場合、師匠への報告と許しを頂けるかどうかということもあり、若干の時間をいただくこととなった。そして翌年審査会員に推挙して頂いた。よって私は、こういうことを申し上げてよいのか分からないが、書道芸術院展における入選入賞歴というものがない。

これを認めるにあたって、手元の『第60回書道芸術院展記念集』の末尾に記されている「六十年史」に当たったところ、私が初めて当番審査員を仰せつかった第17回展（昭和39年）のところに、運営委員として石田耕堂、石田霞洞、岩垣翠城、伊東快堂、表立雲、恩地春洋、香川峰雲、香川春蘭、加藤翠柳、川崎梅村、関口虚想、武士桑風、種谷扇舟、中島邑水、西久保翠丘、山本聿水、和井田要といった実力者のお名前をみつけ、あらためて懐旧の念一入であった。改築される前の東京都美術館における審査の光景もまた懐かしく思い出される。

かく入会させていただいた私の、その後については、皆様方ご覧のとおりであるが、その間、終始頭にあったことは、香川峰雲先生への恩義に応えなければいけないということと、紹介者山本聿水先生に対する仁義を忘れてはならないということであった。言い換えれば、世間で言うところの顔をつぶさないように心掛けたということである。

その後、さらに種谷扇舟先生をはじめ他の多くの役員の方々の特段のご高配により、毎日書道展審査会員への推挙もいただき、その鴻恩は生涯忘れてはならないと、長年肝に銘じておる次第である。

掲出の作品は、その昔、高校時同窓であった某県議会議員に乞われて群馬県知事に贈呈、今は庁議室に掲げられている思い出の作である。

釈文　心　如　鐵　石
読み　こころはてっせきのごとし
意味　心の堅固なること金鉄岩石のごとし

最後に、昨20年の3月に開催いたしました、私事の「西林乗宣書業五十年展」では、皆様方にたいへんお世話様になりました。この場をお借りし、更めて衷心より厚く御礼申し上げます。

書のひろば

理事長　恩地春洋

毎日書道会理事会
―人事を中心に報告―

去る6月11日の毎日書道会理事会で平成20年度事業報告並びに会計報告、人事異動、毎日書道顕彰の承認、毎日書道図書館開館の報告、その他承認、決定された。

(1)人事（本院関係）

・理事　辻元大雲（補欠選任）

・退任　恩地春洋（役員定年）

・最高顧問並びに名誉会員

恩地春洋（平成21年8月1日付）

・総務　浜谷芳仙（委嘱）

（21・7・1～23・7・31）

・評議員　大野祥雲（再任）

下谷洋子（再任）

小竹石雲（新任）

浜田一堂先生逝去

書道芸術院名誉顧問、毎日書道会参与会員、浜田一堂先生が6月10日、脳出血の為逝去、先生は、書道芸術院副会長、東北総局長、又、毎日仙台展実行委員長として敏腕をふるわれた。

毎日書道顕彰に辻元大雲さん

本院常務理事、辻元大雲さんの本年2月に開いた「辻元大雲―四季の抒情―」が古典の鍛錬を基礎に品格の高い書、感性豊かな書展と評価され、芸術部門で毎日書道顕彰を受賞した。又、詩人の先生とのギャラリートークなど話題を呼んだ。尚、大雲さんは、6月から全日本書道連盟理事に就任、8月から毎日書道会理事としても活躍が期待されている。

尚、啓蒙部門では、日本刻字協会会長の薄田東仙さんが受賞された。東仙さんは、嘗て、書道芸術院に籍を置いたこともある。国際刻字連盟会長としてアジアの国々との国際交流が認められての受賞である。

(財)毎日書道会　書壇　理事、監事、総務、評議員、参事　一覧　H21年6月11日

団体		顧問（16）	理事（13）	監事（2）	総務（11）	評議員（27）	参事（20）
創玄	17	最高：金子　聰松 最高：中野　北溟 常任：大井　錦亭 顧問：内山　玲子	吉田　成堂 石飛　博光 田岡　正堂		関口　春芳	辻井　京雲 作田　英嗣 ○永守　蒼穹 ○室井　玄聲	松本　暎子 矢田　桂雪 ○大川霽美子 ○大平　匡昭 ○長谷川牧風
日書美	10	常任：加藤　湘堂 常任：小山やす子 常任：山崎　暁子	飯島　春美	渡辺　墨仙	鬼頭　墨峻	藤沢　麦草 松井　玉峯 大谷　洋峻	志津　和子
蒼星	13	最高：稲村　雲潤 ○常任：岸本　太郎 ○常任：菅野　清峯	○大楽　華雪 ○中原　茅秋		○田村　空谷	玉村　舞山 ○貝原　司研 ○中原　志軒	小森　秀雲 野崎　徽南 濱田　素山 道方　芳堂
独立	8	最高：小林　抱牛	貞政　少登 仲川　恭司		竹内　鳳仙	片岡　重和 柿下　木冠 山中　翠谷	小島　碧雲
書道芸術院	11	○最高：恩地　春洋	○辻元　大雲		○浜谷　芳仙	○小竹　石雲 下谷　洋子 大野　祥雲	小伏　竹村 山下　皓映 浜田　一堂 村野　大仙 香川　倫子
東京	3		林　竹聲		林　蕉園	柳　碧蘇	
日本書道院	3	最高：田中　凍雲			中村　雲龍		高橋　静豪
現代書道院	1		宮崎　紫光				
書壇院	2				長井　蒼之	小林　畦水	
六友	3	顧問：皆川　雅舟			阿部　海鶴	水川　舟芳	
篆刻	2		関　正人			遠藤　彊	
刻字	3	顧問：高際　翠邦			薄田　東仙	安藤　豊邨	
温知	1			神部　愛竹			
玄潮	2					寺井　朴堂	桑山　大道
白峰	1					後藤　竹清	
あきつ	1	常任：米本　一幸					
書燈	2		船本　芳雲		○百瀬　大燕		
みちのく	1						渡辺　洋一
北辰	1						森本　龍石
北海道書道協会	1					小原　道城	
北陸書道院	1					青柳　志郎	
相峻会	1					三宅　相舟	
貞香会	1					○赤平　泰処	

李方子さんのお墓

梨本宮家から韓国の李王朝最後の皇太子、英親王・李垠殿下に嫁ぎ、1989年4月30日、87歳で亡くなった李方子（まさこ）さん。戦後、韓国の慈善事業に献身され、「一生いばらの道を歩まれた方」李方子さんの墓は、りっぱな円墳だった。

後の円墳が皇太子妃・李方子さんのお墓

「書の甲子園」テーマの青春マンガ とめはねっ！ドラマ化
NHKが来年1月から

コミック誌連載中の漫画「とめはねっ！」（河合克敏作）が来年1月、NHKのTVドラマとして放映される。六回の連続番組で書道監修は石飛博光先生。

NHK総合テレビ木曜午後8時から45分番組。主演は朝倉あき。柔道部のエースが書の甲子園に挑む女子高校生を演じるという。書の発展のためによい機会になれば…。

21世紀の書
―私の主張―

漢字 (四)

小浜大明

書線の研究を進めていくと、顔真卿の書にたどりつきます。顔真卿は古法に習熟し、自在に筆を操っています。その彼が、古法のみに飽き足らず、新法と呼ばれる直筆をもとり入れ、多様な線を表現しています。縦画一本とっても、その表現は多彩です。平面的になり易い古法に、立体をもり込んでいます。

今迄述べてきた様に、まず古典の臨書から用筆法や結構法を学び、優れた作品の観賞から造形力を養います。それらの基本に立脚し、題材となる文字を選びます。現代書は自分が感動した気持ちを、他に伝える媒体であると考えます。以前は漢詩を題材として各自の想いを伝えようという手法が中心でした。しかし漢文が徐徐に高等学校の授業や大学入試から姿を消し、漢詩そのものが遠い存在になりつつあります。もう一つには、受けた感動を表現しようとするとき、長文ですと最後まで書いていくうちに感動が薄れていくものと考えます。感情の表現には、一字または二字程度が適していると考えます。現代書の発想は、巧妙に書いてその技術性を見てもらおうというのではなく、感動を他に伝えようという考えが核となるでしょう。

「麓」　小浜大明書

4.5尺×3.5尺

かな (四)

前田まさ美

百人一首は、書道芸術院展、毎日書道展等、作品の素材としてよく書きます。

作品には、縦、横書きがあり、その表現方法は、実に多様です。

素材選択は、先づ季節感を重視します。

左記の作品創作にあたっての手順を述べさせていただきます。

◎題材は

「天つ風雲の通ひ路吹きとじよをとめの姿しばしとどめむ」　（僧正遍昭）

◎文字数は複雑さを避けるため、26字前後とし、流れの出しやすい字を使用、中央部に盛り上がりを作る。

◎漢字はなるべくそのまま書きたいので、かなとの調和を考え字典を引く。（この時つくづく漢字の勉強をしなければと実感します。）

◎変体がなを組み合わせて変化を出す。をとめ＝越止免、遠登女、平止面。姿＝須可多、春可堂、寸可太、など。（組み合わせ方で作品の雰囲気が、かなり変ります。）

◎字の大小・疎密・潤渇・リズム、これらを頭に入れ、基本的な形、縦二行書きを2×6尺の紙に書きます。幾通りかの作品が出来、その中の一番バランスの良いと思う一点をさらに書き込みますが、呼吸が大切と常々心していますが、筆が気持ちの通りになかなか動きません。

何故かいつも反省点ばかり、いつか満足出来る作品になるよう、努力、努力の現在です。

前田まさ美書

180×60㎝

書話シリーズ 375

「追想」幼き日によせて

羽田萩径
（現代詩文書部・審査会員）

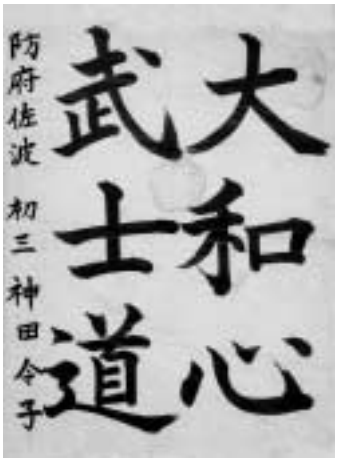
桜の蕾がひらいたら学校へ行けると、心待ちしていた昭和17年頃の情景がありありと蘇って来ます。すでに戦時体制に入り、国策から小学校を国民学校と称していました。入学を控え漢字で名前を書きたくなり、手本を親にせがみたどたどしく稽古をし、いびつながらどうにか画数も覚えましたが、早くきれいに書きたいと願っていました。

入学式に臨み教室に入るとイロハ順の席次に白い短冊に墨書された漢字の氏名が机上に置いてあり、自分の席をみつけた時、漢字の練習をしておいて良かったと思いました。担任の先生は希望に胸ふくらむ児童の前で黒板に漢字と片仮名で自己紹介されました。配字がきれいだと感じました。みんな静かにみつめていました。美意識はいつの時代の子供でも心得ていると思っています。

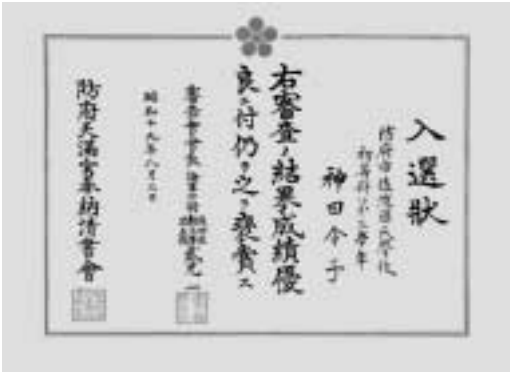
一年間美しい字で接し、慈しみ育んでくださった先生が持ち上がりになられ戦争で不安定な心理状況の子供たちに情操にも気配りされ、雛祭りや端午の節句など、男女一緒に祝ってもらい、黒板にゆかりの歌詞が丁寧に書かれ、みんなで楽しく唱和し、教室には和やかなひとときが流れゆきました。

二年生終了前の春浅き頃、御結婚のため教職を辞される報に、惜別の情やみがたく涙を拭うのでした。

戦況は厳しくなり三年生の頃は物資も商店から消え文具店も同様で紙質の悪い半紙がやっと入手出来る状態でした。習字の時は戦前からの風習である新聞紙半頁分を何枚か和綴にして練習用として使っていました。



防府満宮に奉納した作品



上記の写真は書道にすぐれ、学問の神様である菅原道真公が祀られている、防府天満宮に三年生の時、奉納した作品です。課題とその頃本当に貴重な手漉半紙を二枚与えられ、真剣に書きました。山口県内外からも、毎年高水準の秀作が納まり、その筆跡の見事さに、瞠目いたしておりました。

戦局が不利に傾く一方の中で、平穏を待ちあぐみ、心安らぐ時を、わずかでも過ごせたのは、墨の薫りが身辺に漂っていたからだと懐古しております。

昭和20年、四年生の夏、敗戦となり社会も変遷し、書道は重要視されなくなり一抹の寂寥感を味わいました。

後年、日常生活に毛筆を使いたく不惑を目前に、山田魯江先生に入門させていただきました。先生は気品ある書をしたためられ、多くの事柄も教わりました。書道芸術院にも先生の御配慮で御縁を頂戴いたしました。いつも古典を紐とき晩年まで筆を手に研究しておられた姿が脳裏に浮かびます。

ちなみに防府天満宮境内には、魯江先生揮毫の筆塚があり、毎年4月桜吹雪の舞う中で厳粛に、筆供養がとり行われております。

顧みると造形美術などに心引きよせられる源流は幼い体験が起因していると思っています。現在ささやかに書を嗜んでいますが、宮城野書人会の諸先生、山田梓江先生はじめ、先輩書友の方々の温かい支えを感謝しております。

恩師山田魯江先生、夭逝された清水恵美子先生に改めて鎮魂の意を捧げたく思います。

書譜（孫過庭）①

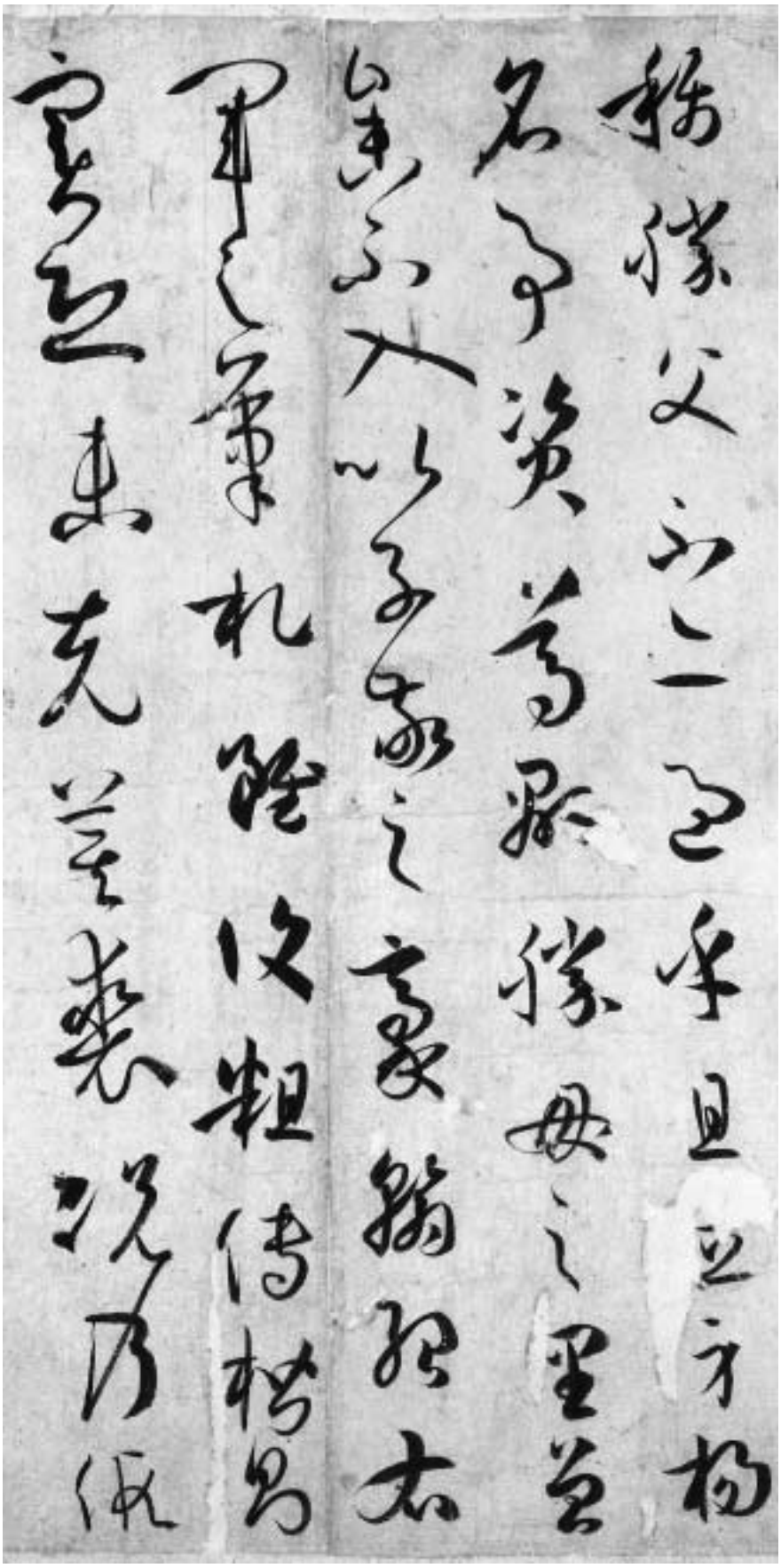
〈解説〉書譜は、唐代の数少ない真跡の一つである。また、王羲之書法のもっとも忠実な継承作である。そしてその内容が書芸術論の古典的名著であるという重要な三点をとらえなくてはならない。この真跡書譜は、台北故宮博物院に現存する。9m余の巻子本に仕立ててあるが、明末ころまでは、二巻に分装されていた。全文3727字を標準的な草体で変化縦横でありながら調和美をそなえている。（編集部）

用紙　半紙普通判

＝注＝

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。（掲載部分以外は不可）

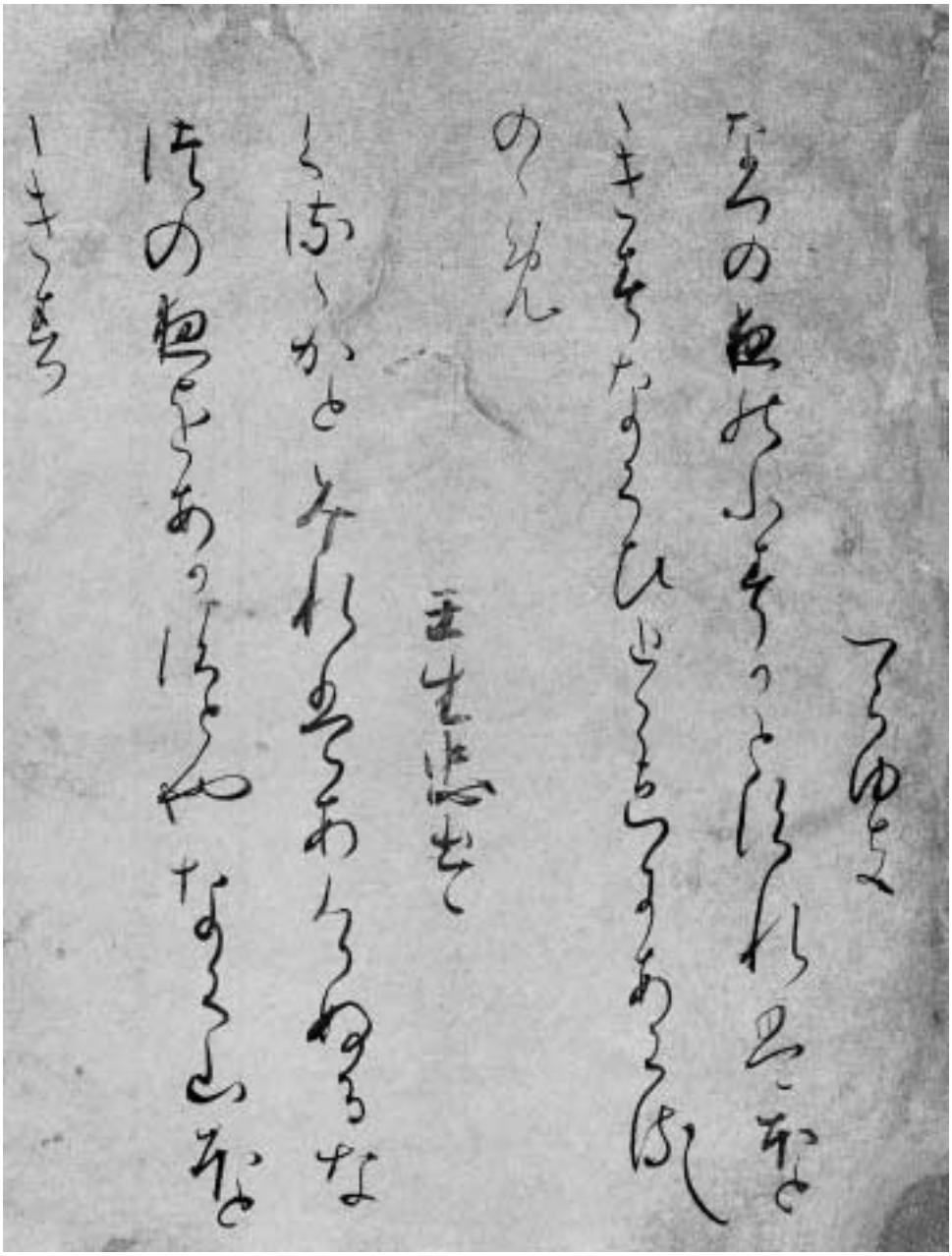
※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
（押印のみも可）



稱勝父。不亦過乎。且立身揚／名。事資尊顯。勝母之里。曾／參不入。以子敬之豪翰。殆右／軍之筆札。雖復粗傳楷則。／實恐未克箕裘。況乃假

⑥④ かな研究部

関戸本古今集（伝・藤原行成）①



※左記の掲載歌一首以上を書く（全臨も可）　用紙・半紙普通判（料紙可）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

〈よみ〉

なつの夜のふすかとすれば（春可須）ほと（久流）
ゝぎすなくひとこゑにあくるし（尓）
のゝめ（免）

壬生忠岑（みぶのただみね）

くるゝかとみれば（盤）あけぬるな（徒）
つの夜をあかずとやなく山ほと（久本）
ゝぎす（春）

〈解説〉

関戸本古今集の構成を見ると、料紙の色に合わせながら、例えば漢字の取り扱い方に主題の中心を置く・行の流れや行間の動きに重点を置く・運筆の速度が速く、筆圧の変化がはげしいところ・字粒が小さくデリケートな運筆の部分・禿筆（とくひつ）による線の太い大胆な掠（かす）れの所など、多様なメリハリの利いた構成表現がされている。これは、古今和歌集を長期にわたって書写した、筆者のその時々の感興によるものと思われる。

※右記の掲載歌一首以上を書く（全臨も可）　用紙・半紙普通判（料紙可）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字規定　初段以上　【八月十五日締めきり】　用紙　半紙普通判

大野祥雲選書

樂　此　不　疲

よみ（此を楽しみて疲れず）

書体＝自由

習い方解説 (四)

大野祥雲

樂此不疲
（此を楽しみて疲れず）

「樂」 書写体で書いたので上部をたくさんの点画で構成。これをささえる「ホ」は筆先を利かして鋭い線にした。

「此」 左の力強い縦画を受けた横画、右上がりに突く。次の縦画を少し長くし、終画は豊かさを出し、左へ返る。

「不」 横画は筆を立てて右上がり、二画目は直線的に突き、縦画は鋭く引き締める。最後の画で安定させる。

「疲」 やまいだれをめりはりの利いた線で一気に書く。皮も筆先のばねを生かし、息永く運筆。終画は直線的に引き抜く。

漢字規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

種谷萬城選書

如松之盛　よみ（松のこれ盛んなるが如し）

書体＝楷書

習い方解説 (四)

種谷萬城

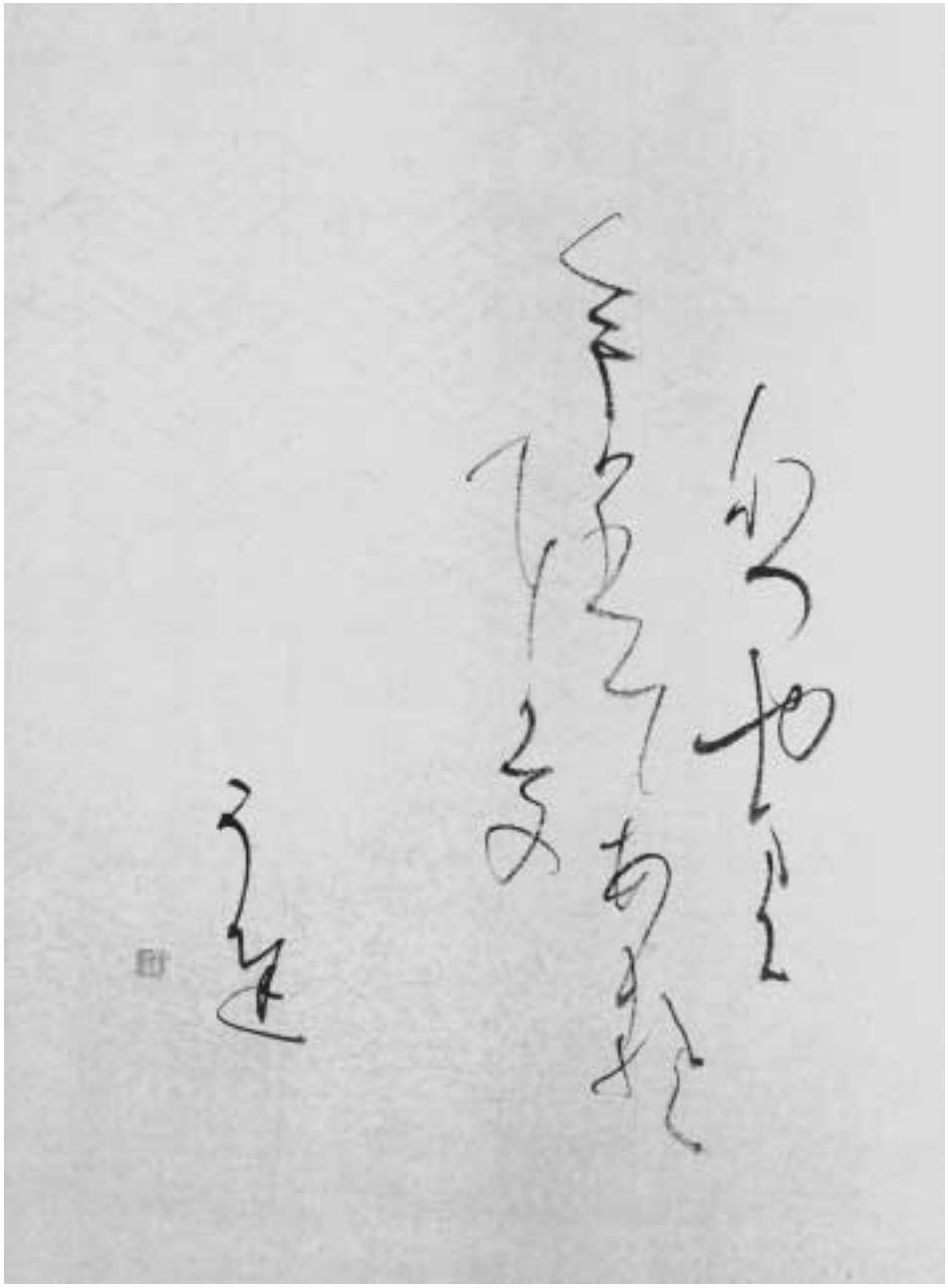
如松之盛
（松のこれ盛んなるが如し）

「似蘭斯馨、如松之盛（忠孝の道に励む者は、蘭の香りのようにさわやかで、松の盛んに生い茂るように栄える。）」は千字文の中の言葉です。人がその高名を留めるのは、蘭の香りのようであり、松は変わらぬ心があってどの季節でもいつも茂っています。君子が志を守り、操を保つことにつとめつつ濁世に生きる姿は、松が霜や雪にあっても、その枝ぶりや葉を変えることがないのと同じです。

今月は、初唐の三大家の一人・欧陽詢の書風で倣書しました。欧陽詢の書は、側筆を用いた厳正な筆法で、線質は直線的で緊張しています。字形は背勢（字の中程を内側に引き締めた形）で整斉です。古来『楷法の極則』と評価が高く、歴代楷書の名品中の名品です。

かな規定　初段以上【八月十五日締めきり】用紙　半紙普通判（料紙可）

下谷洋子選書



よみ方　な(那)つやま(万)に(爾)む(牟)か(可)ひ(悲)てある(類)く(久)に(耳)は(盤)のうち(遅)

創作

習い方解説 (四)

下谷洋子

夏山に向ひて歩く庭の内
（高野素十）

この下の句の、しゃれた冗談に笑えます。

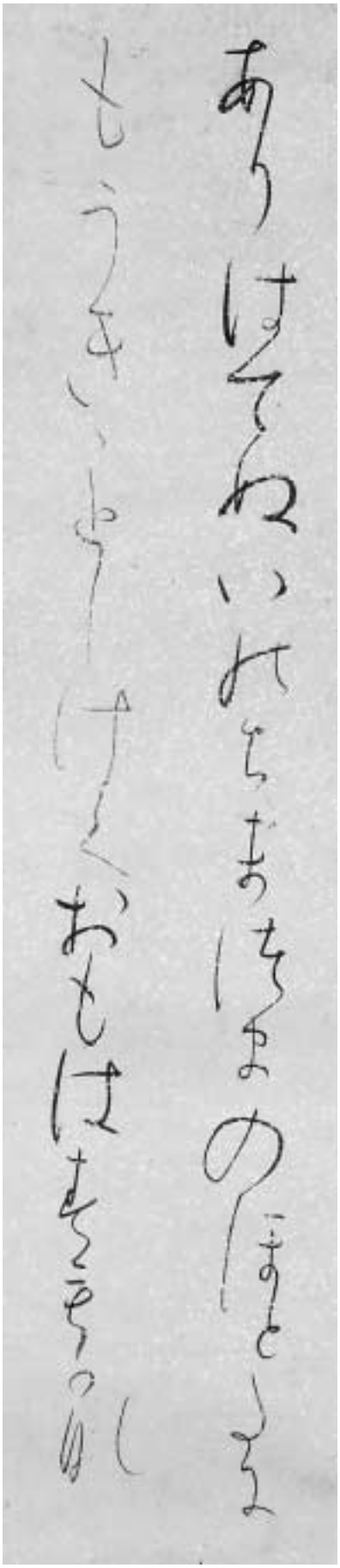
今回の俳句は、敢えて全部かなで書いてみました。それにしても文字数が少ないので、行を寄せて片方に群を作り、余白を大きくとりました。寸松庵色紙には、一般的なものからこのような左右分裂式や、右半分に全行を集めた虚実式など、様々な散らしが載っていますから参考にされるとよいでしょう。

参考

夏山にむか(可)ひ(非)て歩く(久)
庭の内　　素十の句

かな規定　秀級以下　【八月十五日締めきり】　用紙　半紙タテ1/2（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真のうたを全臨、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。



高野切第三種
（掲載写真縮小93％）

よみ方　ありはてぬいの(能)ちまつ(徒)まのほどだ(多)に(尓)
もうきことしげく(久)おもはず(春)も(毛)が(可)な(那)

かな条幅規定　**【八月十五日締めきり】**　用紙　小画仙紙半切（料紙可）

田村澄子選書

よみ方　鬼灯を(乎)口に(尓)ふ(布)くみて鳴らす(春)こと
蛙は(者)な(那)く(具)も(毛)夏の浅夜を

創作

習い方解説 (一)

田村澄子

鬼灯を口にふくみて鳴らすこと
蛙はなくも夏の浅夜を

（長塚　節）

鬼灯を口に含んでならすように蛙がないている。夏の浅い宵を。子供のころを想い出します。

半切二行書一般的な大字かな、墨量に気をつけ、二行目の頭は渇筆になるよう、後半に墨継ぎをしてみると立体感が生れます。それぞれのリズムで、景色を創ってみて下さい。

※たて形式に限る

漢字条幅規定　初段以上【八月十五日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

村野大仙選書

竹外煙浮僧煮茶　草辺風暖鹿眠沙
（竹外煙は浮び僧茶を煮　草辺風暖かに鹿沙に眠る）

書体＝自由

習い方解説（四）

村野大仙

条幅作品は全体の文字が調和しないと美を損ないます。統一感が必要です。今回は縦画に留意して書いてみました。縦画は文字にとって大事な柱です。すっきり立った姿で統一すると、ふらつかない凛々しい味わいが望めます。心掛けてみて下さい。

漢字条幅規定　秀級以下【八月十五日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

半田藤扇選書

洞庭西望楚江分水盡南天不見雲
（洞庭西に望めば楚江分かる　水尽きて南天雲を見ず）

書体＝自由

習い方解説（四）

半田藤扇

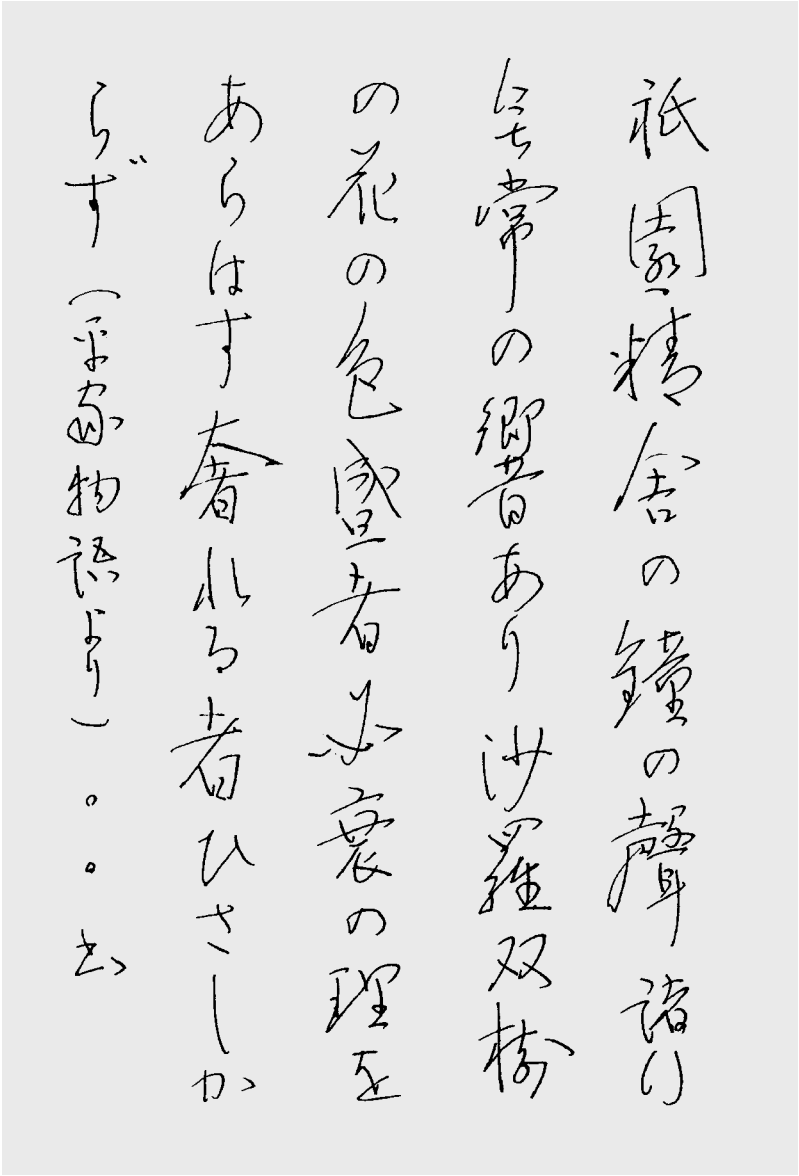
〝洞庭湖より西の方を望むと、その地方で楚江と呼ばれる長江（揚子江）の本流ばかりでなく、支流までよく見える〟

楷書の中でも情緒があり品格を持つ褚遂良の書法を取り入れてみました。

特徴として、バネのある直線と多少のうねりのある曲線を調和させてみてはいかがでしょうか。

ペン字規定【八月十五日締めきり】

西林乗宣選書



用紙＝はがきの大きさ、白色のもの、**黒インク**使用のこと

書体＝自由

〈よみ〉 祇園精舎の鐘の聲諸行無常の響あり沙羅双樹の花の色盛者必衰の理をあらはす奢れる者ひさしからず（平家物語より）

習い方解説 (四)

西林乗宣

「平家物語」

原型は3巻だが、その後増補される。平家一門の栄華と没落の全過程を描いたもの。全篇に諸行無常、盛者必衰、因果応報などの仏教原理が浸みわたっている（尚学図書）。

「祇園精舎の鐘の聲」以下この冒頭の部分は余りにも有名である。全体に和漢混淆文、七五調で流麗、平曲として琵琶にあわせて語られたという。

「盛者必衰の理」は（じょうしゃひっすいのことわり）と読む。弔辞に生者必滅（しょうじゃひつめつ）会者定離（えしゃじょうり）の理と引用されるが、誤らずに読みたいものである。

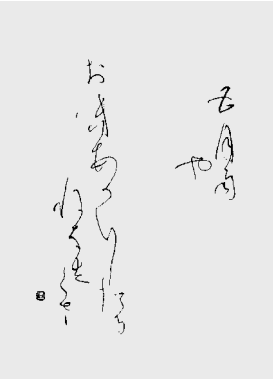
練習にあたって

課題を見てすぐ書き始めるのでなく、一旦そこから離れ、漢字については「集字聖教序」や「蘭亭序」「千字文」といった行草の手本について勉強してみるのも目が開けて効果的である。

※落款を入れ忘れないようにしてください。（落款は**自分の名前**を入れてください。）

今月のホープ作品各部総評 NO.577

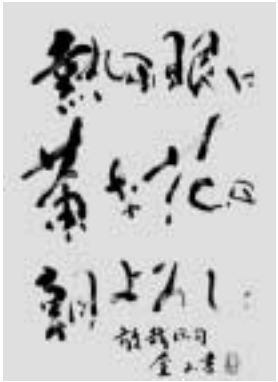
かな部　師範　西巻サト子
大きな動きでゆったりと運筆した豊かな表現に魅了されます。落着いた雰囲気が爽やかで上品です。
◎かな部総評　全体にレベルが高く好ましいが、創作に挑んだ人が少なく残念。紙面の美しい完成を目標にして制作のこと。（明子評）



かな条幅部　五段　植村冨美子
礼や哉など少々あやしい字もあったが、骨力のある運筆で線が冴え、何より躍動した気韻に期待！
◎かな条幅部総評　参考手本の字が小さ目だったためか、誤字が多かった。変体かなは特別な文字ではなく漢字の草書です。（洋子評）

前衛書部　特選　亀井　健
紙面全体に濃淡の線が交差し、迫力と重量感を出した力作。落款も絶妙の位置にありすばらしい。
◎前衛書部総評　表現の多様性と余白を生かした明るく楽しい作品が多かった。（蓮紅評）

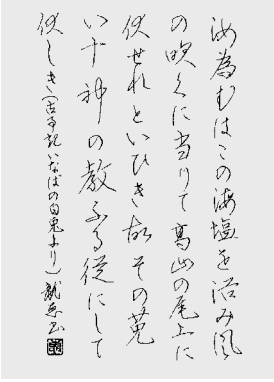
現代詩文書部　特選　佐藤　奎山
横画と、行の右上がりから動きを感じ、骨力もしっかりした積極性のある攻めの作品となっている。
◎現代詩文書部総評　作品を活性化さす方法はいろいろとある。パターン化が気になる。（石雲評）



漢字条幅部　師範　安藤　華祥
軽妙な運筆で、明るく爽かなまとめの隷書、強い線の次は軽み、と学書方法が着実でたのもしい。

◎漢字条幅部総評　「碑帖の窓」が一ページに連載されて好評です。刻書と肉筆を比べながら書法の参考にしてください。（春洋評）

ペン字部　師範　加藤　龍恵
運ペン切れよく字形正斉とし、冴えある秀作。落款まで一貫した流れで格調高い。ご研鑽に流石。
◎ペン字部総評　「古事記」よりの課題を素直に且つ丁寧に表現している又草書体構成の良い機会だったのではと思います。（京華評）



漢字部　師範　小林　椿寿
軽妙なリズムで紙面に動きある草書表現。明るい大らかさが感じられて広がりある作。
◎漢字部総評　上級五文字表現や平凡作多し。書体、書風の変化運筆のリズムなど更に工夫と錬磨を。下級楷書も同じ。（大雲評）

今月の特別研究部優秀作品（特選）

前衛書

（若葉）

工藤山房

「朝もや」

工藤山房書

70×135㎝

◆ほのかな情感を漂わす淡い墨色をやや粗いタッチの破筆で生かし、動きある作となった。左側の冴えが光り、右側ややまとまりに欠ける。（大雲評）

◆やわらかな淡い墨色がよい。左の逆三角形が確かに坐り、右が従となって走る。柔軟な感性が光りに包まれて息づいている明るさがよい。（春洋評）

◆湿り気を帯びた朝もやを想いました。書きすぎない線の中に精一杯の情を込め、慈しむような敬虔な気が燻ります。久々に新鮮な書風でした。（洋子評）

◆紙に筆をおろした次点から息つく隙もなく作品を作った迫力を感じます。体も踊るように動いたのでは、欲をいうと三角にもう少し動きを。（倫子評）

現代詩文書

（蒼原）

熊谷青山

「横浜の埠頭に憩ふ…」

寺畑多都子の歌

◆長鋒を使って余白を巧みに支配して文字造形に工夫のあとが見える。この感性は大切にしたい。無機質な細い線の克服が必要ではないか？（春洋評）

◆衒いなく二行に書いて魅了するのは難しいが、呼吸のとり方で間が開放的に韻き、洒脱な造型感覚も相俟って、知的な現代性が出ました。（洋子評）

◆全体の纏め方が大変美しい。ただ筆の流れにまかせすぎて終筆の軽い所が気になる流れを続けさせるには終筆と始筆の受けが欲しい感じ。（倫子評）

◆超長鋒を巧みに操り、明るいリズム感ある作。開港百五十年を寿ぐ時機に叶う詩文書は、書と文字のコラボレーションを演出して楽しい。（大雲評）

熊谷青山書

180×60㎝

総評

今月は87点（漢21、か9、現33、前23、篆1）が出品されました。

5月に千葉市美術館で「大和し美し」展が開催されました。小説家・川端康成と日本画家、安田靫彦の交遊を主題とした展覧会です。古美術や良寛を話題にした二人の交流は24年間続きました。会場には二人の身辺で愛玩された古美術品、絵画、良寛の書が展示され感動しました。「ただ一つの古美術品が、美の啓示となり、美の開眼となることは実に多いのです。」の言葉を川端康成は残しています。優れた書作品の誕生には、啓示となる魅力的な書作品との出合いが大切です。（萬城）

〈特選候補者〉

漢	蒼峰	豊澤 蒼峰	現	うる	今関 心華
〃	玄穹	千葉 紅雪	か	上泉	勝山 初美
〃	氷壑	伊澤 香雨	〃	書泉	善養寺紅風
〃	一弦	木村 貴衣	〃	墨	青蓮 伊藤 有津
現	游水	荒川 空華	〃	蓮紅	浅野 彩紅
〃	炎佳	佐藤 華炎	〃	〃	一條 紅蕭
〃	白珠	工藤 永翠	〃	〃	大友 紅蓉

漢字

（大雲）

大隅晃弘

「七言二句」

大隅晃弘書

165×45㎝

◆渾々とした風情の暖かみに惹かれました。ご本人の面影と重なり、抑制の利いた無駄のない線に書への真摯な姿勢が窺えるようです。（洋子評）

◆ゆったりとした心の動きが作品に反影して観賞する者の目を楽しませてくれる。その中に鋭さを感じさせてくれる所があるのも楽しい。（倫子評）

◆暢達した筆致で柔らかな雰囲気を醸し出す。柔毫筆の柔らかな弾力を軽やかな運筆のリズムで生かし、滋味溢れる作となった。（大雲評）

◆しっとりと落ちついて暖かい人柄を感じさせる。省略の利いた造形で、おしゃべりの少ない線が余白に語りかけてくる。細く長い線に注意。（春洋評）

現代詩文書

（誠和）

石崎甘雨

「珈琲をのみ干し乍ら白濁と…」

石崎甘雨書

70×136㎝

◆濃墨を巧みに使って全体に変化つけた力抜群です。紙質と墨色に違和感があるのだがそこを少し考えて次作に挑戦して見ては期待してます。（倫子評）

◆木筆使用か。荒々しいタッチで観者を魅了する作。上部二行の大胆さと三行目のバランスも自然で、変化ある作となった。次を期待したい。（大雲評）

◆濃墨が気迫と共に白と対決する。この気力を大切にしたい。墨のこぼれも味わいを添えて紙面に生きている。佐藤忠良「芸術派爆発である」（春洋評）

◆濃墨で激しいタッチであるのに騒々しくないのは何故か…。作意が自然に咀嚼され、書き手の心の響きとなって紙面に収まる。伸びやかな快音。（洋子評）

かな

（卯月）

栗原信子

「さみだれの雲間の月の晴れゆくを
しばし待ちけるほととぎすかな」

栗原信子書

136×70㎝

◆切れ味鋭く、緊張感ある運筆の冴えが紙面に展開する。左側の大胆な余白に対し、一二行目やや窮屈な感あり。もう少し余裕がほしい。（大雲評）

◆何よりもこの強靭な線質がよい。響きの高い線の鍛練はいつまでも心の隅に持っていたい。紙と墨の戦いがすんで融合するときまで。（春洋評）

◆張りのある強い線質で、紙面を圧する深さがよい。但、リズムの緩急に変化が乏しく、強さが優先しているように思う。さらに練ること！（洋子評）

◆一気に流れる様に歌を聞かせてくれるよう。走りすぎずに一寸と一息つける所も欲しい感がしたのは私だけか。歌の趣きに印が固い感じ。（倫子評）

漢字研究部
（久隔帖）

選評　西林乗宣

今月のホープ作品

高橋志朋

漢字研究部　特選　高橋　志朋

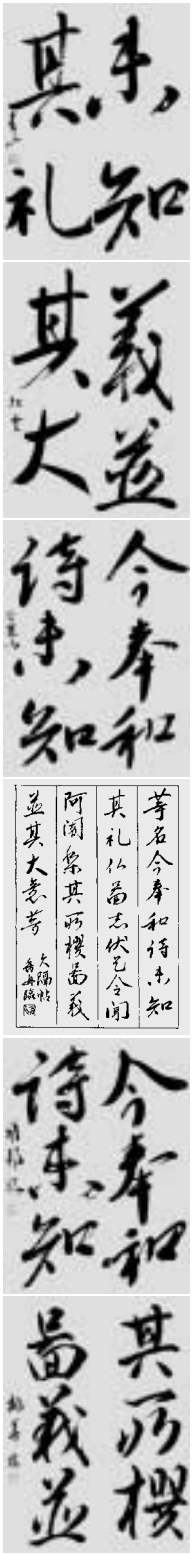
審査というと、大方は作品を右へ左へと分けていく。本作品は最初から躊躇することなく右の右、すなわちその第1等に上げ、最後まで注目された。墨色に輝きありて暢達、今の第1画、奉のすべての画に感銘、実力あり。

◎漢字研究部総評

書も絵もそして音楽も審査というのは難しい。なぜなら、スポーツのように何センチとか何秒という尺度ものさしがないからである。A審査員が良しとしてもBは推さないかも知れない。しかし、共通して言えることは練度である。歌なら一声、野球なら一球投げればプロはたちどころにして見抜ける。本課題では、手本の微妙なところを読み取り、練度の高いそして厚みと深みのある作品を心掛けてほしい。これすなわち本道である。

初江　紫泉　梨秀　佳泉　彩炎　大雪

ま菜　白円　龍凜　光貞　秀燁　扇



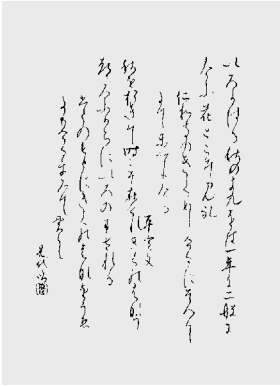
青紅　谷香　山雲　麗舟　雅邦　桃華

咲京　直谷　花秀　蒼香

かな研究部
（筋切）

選評　山藤　美知子

今月のホープ作品

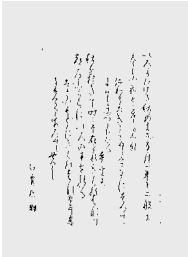


小林晃代

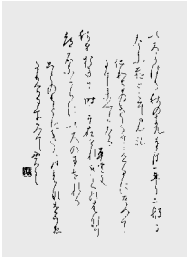
漢字とかなが調和し、軽快できめのこまかい筋切の特徴を見事にとらえた秀作です。筋切は鳥の子の料紙でかかれています。用紙一考を。

◎かな研究部総評

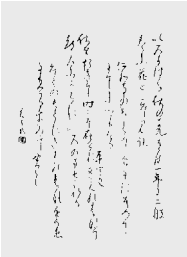
総体的に筋切の特徴をうまく表現できた作品が多く見うけられ、古筆の勉強の成果が少しづつ現われてうれしく、丁寧に、飽きずにと願います。



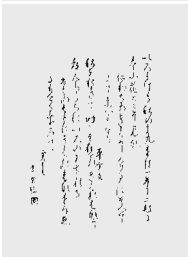
良春郁　子燈子



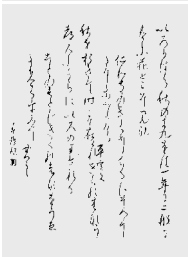
美佐路翠　枝子綾



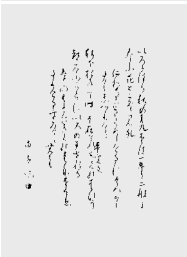
英昌美　子子代

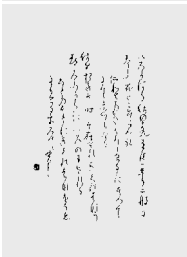


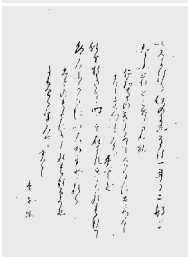
紅幸秀　霞雲子

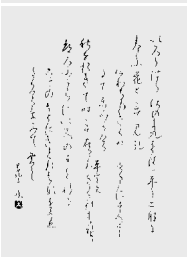


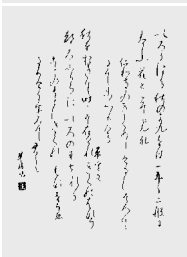
かな研究部　特選　小林晃代

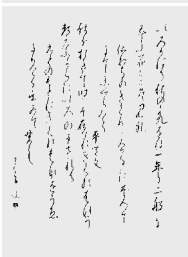












かな研究部成績表

特選

椿翠　正華　昌華　湘南　正華　高寛　たか　正華　椿翠
Aー翠　正華　伊藤　吉田　小嶋　星野　岩上　加田　小林瀬
椿路　玉松　橋本　安藤　藤村　藤田　野上　岩郁　加春　小林良
路子　綾子　藤美　藤紅　藤子　英翠　翠綾　星路　野佐　郁子　春燈　良子晃
翠子　綾子　美代　紅霞　昌子　翠子　綾子　路子　佐枝子　郁子　燈子　子代

秀作（60音順）

卯泉　千明　大雲　大阪　澄春　宇明　岩根　磯貝　飯田　新谷　大森　川部　春岸　恵耀　清彩　光泉　嵐芳　喜代　華照
月葉　月　葉　阪　澄　宇　岩　磯　飯　新　大　川　春　恵　清　光　嵐　喜　華
椿翠　翠波　林晃　瀬春　良燈　子代　春郁　佐枝　上野　田岩　加星　小吉　伊藤　藤堀　橋安　藤蔵　椿路　玉松　正華　昌華　湘南　正華　高寛　たか　正華　椿翠
翠　波　林　瀬　良　子　春　佐　上　田　加　小　吉　伊　藤　堀　橋　安　藤　蔵　椿　玉　正　昌　湘　正　高　た　正　椿
Aー翠　正華　伊藤　吉田　小嶋　星野　岩上　加田　小林瀬　良燈　郁子　佐枝　野上　田岩　加星　小吉　伊藤　藤堀　橋安　藤蔵　椿路　玉松　正華　昌華　湘南　正華　高寛　たか　正華　椿翠
翠　波　林　瀬　良　郁　佐　野　田　加　小　吉　伊　藤　堀　橋　安　藤　蔵　椿　玉　正　昌　湘　正　高　た　正　椿
翠路　玉松　橋本　安藤　藤村　藤田　野上　岩郁　加春　小林良　燈子　佐枝　野上　田岩　加星　小吉　伊藤　藤堀　橋安　藤蔵　椿路　玉松　正華　昌華　湘南　正華　高寛　たか　正華　椿翠
翠　路　玉　橋　安　藤　蔵　椿　玉　正　昌　湘　正　高　た　正　椿
路子　綾子　藤美　藤紅　藤子　英翠　翠綾　星路　野佐　郁子　春燈　良子晃　燈子　佐枝　野上　田岩　加星　小吉　伊藤　藤堀　橋安　藤蔵　椿路　玉松　正華　昌華　湘南　正華　高寛　たか　正華　椿翠
路　綾　美　紅　藤　翠　綾　路　佐　郁　燈　良　燈　枝　野　田　加　小　吉　伊　藤　堀　橋　安　藤　蔵　椿　玉　正　昌　湘　正　高　た　正　椿
子　子　代　霞　子　子　子　子　枝子　子　子　子晃　子　子　上　岩　星　吉　藤　藤　藤　藤　藤　藤　路　松　華　華　南　華　寛　か　華　翠
子　子
子　子

佳作（60音順）

秀水　青木かよ
青峰　京橋　帝塚　蓮紅　春汀　椿翠　洞書　調布　〃　五葉　やま　有秋　東岳　安波　〃　正華　千葉　八生　昌苑　英峰　竜泉　上小　東原　若葉　生大　正華　東向　竹扇　大阪　秀水　英峰　片野　小野　豊寺　安久　田玉
吉野　吉田　横井　遊佐　藤井　平井　濱田　中川　戸来　都丸　田玉　武山　砂川　鈴木　菅谷　神保　渋谷　篠田　佐藤　佐藤　後久　五代　小藤　工藤　君島　木原　菅原　河野　河岡　合脇　門野　片野　小寺　小野　寺玉
明子　佑子　正江　紅雅　晴子　栄子　竹雪　澄恵　益江　どり　哲子　芳枝　琉華　悦子　佳子　愛華　初香　桂香　良子　美子　さゑ　山房　春翠　輝子　静代　星扇　智子　信子　美代　美代　寺玉　玉華

入選（60音順）

千葉　八街　大雲　文筆　高陵　秀峰　こだ　青峰　竹扇　佐倉　〃　五葉　石習　東向　椿翠　玉葉　江龍　紅瑤　青峰　竜泉　高陵　紅瑤　樹原　伏華　〃　たか　春汀　大雲　書泉　高崎　洞書　澄春　高陵　大雲　帝塚　調布　四谷　生大　竜泉　千葉　青峰　椿翠　高真　こだ　艸玄　青峰　誠和　恵雅　誠和　大阪　こだ　大拙　青峰
足立　足助　朝倉　青木　會木　渡辺　吉野　吉田　山口　山田　森田　真庭　松タ　畠丸　橋本　遠志　鶴山　高百　泉水　住吉　庄司　清水　猿よ　猿渡　佐木　鷺美　坂井　酒と　酒井　齋藤　小川　黒林　木柳　木村　木村　菊原　木池　神内　鹿谷　岡島　梅田　梅山　植原　岩木　入谷　伊藤　板橋　石崎　生駒　五十風　荒木　網島
万実　琇枝　爽陽　知子　勇介　信溪　彩祥　光治　炎秀　睦毅　ケミ　愛石　芝香　日和　希子　恵子　合子　杏華　龍宝　和子　智広　咏艸　冬華　篁右　春子　輝子　静子　晃代　香子　竹雪　博香　竹葉　笹遊　淳子　尚子　善高　志龍　雲卿　裕子　十夜　久子　虹祥　如風　泉溪　悠花　寿子　雅邦　甘雨　萩花　佳栄　孫功　玉艸

選外212名氏名略

咲舟　春汀　N H　艸玄　英峰　竜泉　大阪　京阪　館橋　〃　大阪　高真　華祥　広島　詢扇　舜水　英峰　大阪　彩阪　蘭鼎　大雲　艸玄　竜阪　華祥　春雲　春汀　誉田　伏華　伏華　青汀　玄峰　福穹　高陵　千葉　彩　A I　久賀　千都　伏華　〃　千葉　も習　硯く　N A水　H I　正華　春汀　岩沼　遊雲　大阪　もく
佐藤　坂本　佐々木ミヨ　斉藤　絹子　斉藤　早苗　後藤　知美子　後藤　喜子　近藤　松春　小山　笙洋　小林　史江　木暮　芳萩　熊野　美紀　熊谷　谷涼　工藤　紫蘭　吉瀬　伴子　岸本　彩雨　岸萩　東酉　川崎　優子　河合　和敬　亀井　紫風　金岡　龍美　加藤　雅恵　梶川　紘芳　香文　貝浦　賀生　小野　理大　窓萩　小沖　熊喜　佐代　和子　泡晨　尾形　紅霞　尾川　岡本　真峰　大阪　礼子　大槻　幸江　大嶋　信子　生由　岩美　岩方　岩祥　岩苑　今子　猪又　梨子　伊飼　理霞　伊道　扇石　伊藤　千恵子　伊藤　紫邦　伊藤　良佑　石橋　知子　石田　喜子　池崎　正子　池尚　飯田　恵古　新井　藤萩　藤雪
選外212名氏名略　正華　若沼　菜好　垤江　大阪　六波　羅琴　東実　吉田　吉田　千眞　明漢　吉田　横山　湯本　山崎　山崎　八木　茂木　村田　村野　三嶋　松佐　増田　前田　堀江　江本　藤島　藤本　藤真　藤純　藤一　藤蘭　福田　福タ　平田　平キ　日田　比田　比加　春山　浜シ　根本　西岸　西村　西川　西澤　成島　中島　戸作　冨部　戸萩　徳田　積彩　津華　知田　念　辰美　原本　滝光　滝錦　山韻　内治　信　杏華　高野　神野　新谷　萩碧　下光　嶋　加代　田祢　信与　重裕　澤侑　田雙　鶴
　　竹美　霜月　白鷺　如祥　松村　艸玄　春汀　大阪　澄春　書径　木曜　咲舟　青峰　有玄　有秋　垤橋　京橋　も く　北陸　蓮紅　さっ　千葉　大阪　も く　大阪　大阪　卯月　正華　〃　春汀　伏華　澄春　大阪　誠和　春汀　明漢　皓映　千葉